

## 若者の地域愛着醸成に向けた地域の第三者が及ぼす影響の解析 ～高等学校の「総合的な探究の学習」を例に～

○工藤悠作（北見工業大学 大学院工学研究科 工学専攻 マネジメント工学プログラム）  
内島典子（北見工業大学 社会連携推進センター）  
ウアテイ（北見工業大学 地域マネジメント工学コース）

### 1. はじめに

現在日本の地方都市が抱える「人口減少と高齢化」と「都市部への人口流入」の問題に対し、その一体的な解決を目指して、国は地方創生を推進している<sup>1)</sup>。文部科学省は「学校と地域が連携した教育、人づくりの推進」に取り組んでいる<sup>2)</sup>。学校と地域が連携した教育、人づくりに取り組むことで、地域に愛着を持ち、地域の課題解決に主体的に参加する人材を育成することを目的としている<sup>2)</sup>。また平成29年の学習指導要領に「社会に開かれた教育課程」が記され、子供たちの資質や能力を育むために、地域の人的・物的資源の活用が求められている<sup>3)</sup>。一部の高等学校では「総合的な探究の時間」の授業を活用して、その実践がなされている。また探究学習を通して、地域の第三者と関わることで、生徒のキャリア意識や価値観に大きな影響を与えることが報告されている<sup>4)</sup>。このことから、生徒は地域の人間と関わりながら自身の価値観や考えの変化を経験していくことで、地域愛着を醸成していくのではないかと考えられる。そこで本研究では、若者の地域愛着醸成に向け、高等学校の探究学習において、生徒が地域の第三者と関わることによる地域愛着に及ぼす影響について解析した。

### 2. 研究方法

本研究は、北海道の十勝地方に位置する芽室町の「学校法人権学園白樺学園高等学校」を対象に実施した。進学コース所属の高校生一年生から三年生の計89名を対象として、「探究学習態度」「地域の第三者による関わり」「地域愛着」に関するアンケート調査を行った。そして、これら三要素間における関係性を解析した。

### 3. 結果

アンケート調査の結果、回答数89件、そのうち有効回答率86.5%を示す77件から回答を得た。これらの回答を因子分析によって解析した。調査項目が12項目であった「探究学習態度」では、潜在因子から三因子が抽出され、それぞれ「探究回避」「探究学習濃度」「探究実践」と命名した。調査項目が26項目であった「地域の第三による関わり」では、潜在因子から三因子が抽出され、「伴走」「影響」「承認・理解」と命名した。そして、調査項目が13項目であった「地域愛着」では、潜在因子から抽出された因子は一因子のみであり、「地域愛着」と命名した。これら抽出された因子を基に、三要素間の繋がりを重回帰分析により明らかにした。目的変数を「探究学習態度」の三因子、説明変数を「地域の第三者の関わり」の三因子として分析を行った。その結果、「承認・理解」が「探究学習濃度」に影響を及ぼし、「伴走」と「影響」の因子が、「探究実践」に影響を及ぼしていることが明らかとなった。さらに、目的変数を「地域愛着」、説明変数を「探究学習態度」の三因子として分析を行った。その結果、「探究学習態度」が「地域愛着」に影響を及ぼすことが明らかとなった(図)。

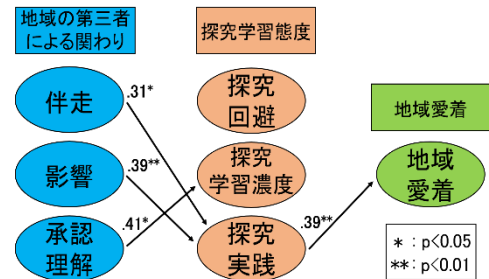


図. 探究学習における地域の第三者による関わりが生徒の地域愛着醸成に与える影響モデル

### 4. 考察

本研究では、「総合的な探究の時間」において、地域の第三者の関わりによる「伴走」と「影響」が、「探究実践」を介して生徒の「地域愛着」醸成に結び付いていることが示された。この結果から、生徒が地域の第三者から学習を支えられ、考え方に影響を受けることが、探究学習で学んだことを自ら実践する態度に影響を及ぼしていることが明らかになった。そして、その影響を受けた学習態度が地域愛着に結び付いていることが示唆された。以上より、地方創生に向けた若者の地域愛着醸成に向けては、教育機関と地域の第三者が連携を強め、地域の第三者が教育現場に関わる機会を持つことにその可能性があると考えられた。

#### 【参考文献】

- 1)内閣官房：地方創生2.0基本構想 令和7年6月13日閣議決定
- 2)内閣官房：地方創生2.0基本構想 施策集，第1章-1(23)，p6，令和7年6月13日
- 3)文部科学省：高等学校学習指導要領（平成30年告示），前文，p17，平成30年3月30日
- 4)小林等(2024)「『第三の大人』との出会いが高校生のキャリア意識に与える長期的な影響の考察：2023年度と2024年度の比較研究：山形明正高校の実践事例から」『玉川大学観光学部紀要』，第12号，pp.81~106